

■ 徳山駅周辺 ストリートファニチャーデザイン

【ファニチャーの種類】

- ・歩車道照明
- ・シェルター
- ・ベンチ
- ・ポロード
- ・サイン等

【ファニチャーデザインの方向性】

- ・息の長い、質の高いデザイン。
- ・周南市の地域性をファニチャーでも表現する。
- ・南口と北口の違いを表現する。
- ・最終的には周南市のオリジナルデザインを目指す。

●歩車道照明（北口広場・南口広場）

北口は賑わい空間を、南口はテクノスケープを意識するが、全く異なるコードとするのではなく、共通性を持たせることも必要である。

照明のイメージは支柱に大きく左右される。今回は味わいのあるトラスを使うことでテクニカルな中にも雰囲気のあるイメージを表現する。

また人のスケールに近い部分である基壇部は鋳鉄製とし、素材感を持たせると同時にフットライトを内蔵し、支柱まわりのイメージアップを計る。

東西のデザインイメージの差は、照明方式と灯具のデザイン、さらに光の色で表現する。

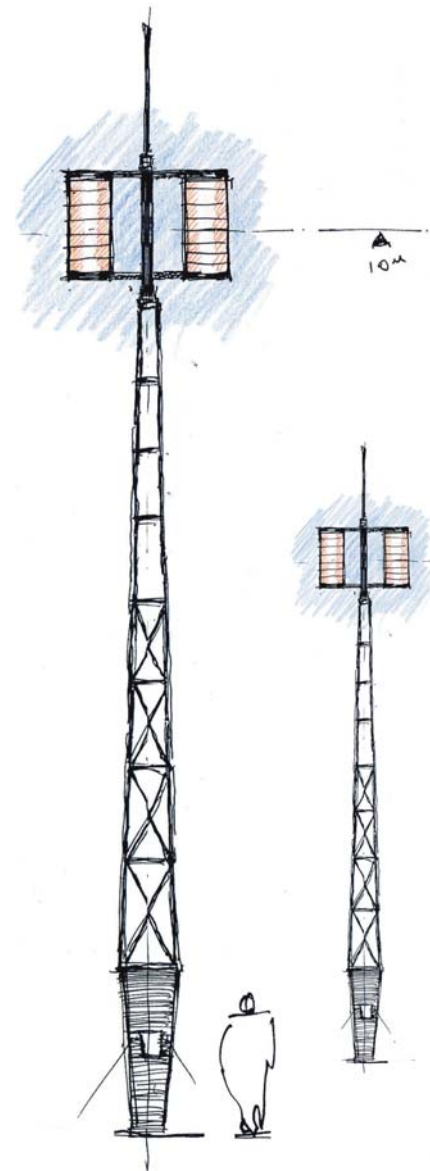
全体として表情のある、人間味のあるデザインを目指す。



参考：トラス柱イメージ（東京都豊洲）



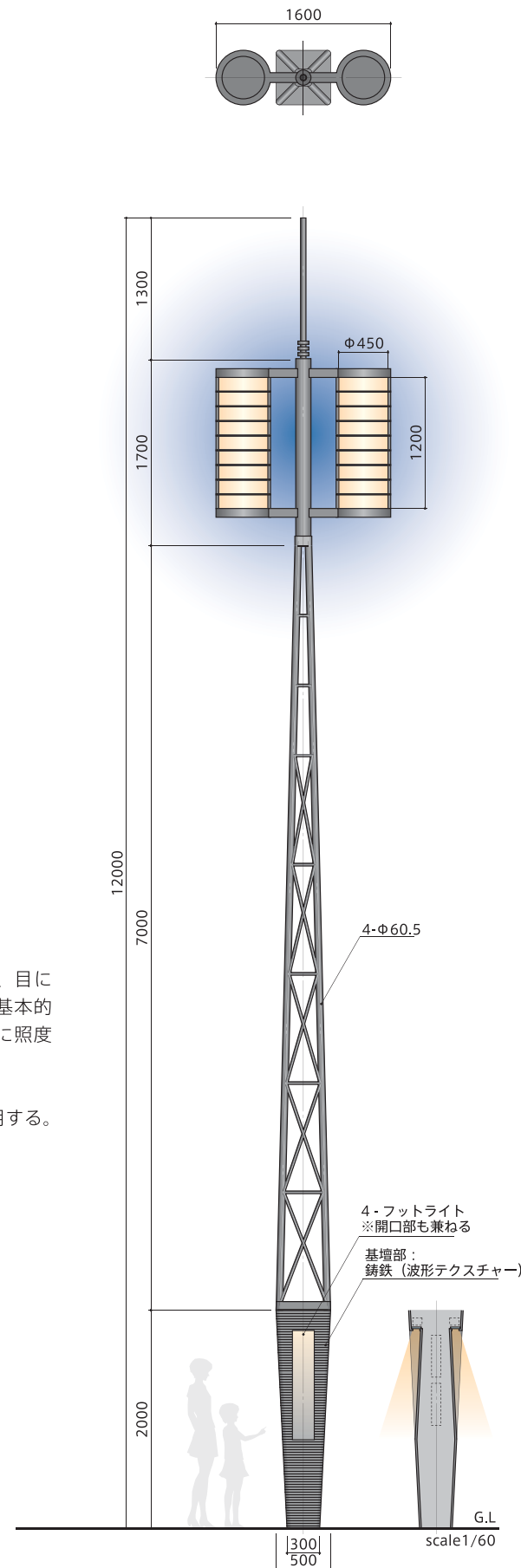
参考：基壇部フットライト（平泉町 毛越寺通り）



【北口広場】

北口広場の賑わい空間を演出する為に、目に見えるポリウムのある灯具を使用。基本的には拡散型の照明方式であるが、下方に照度が出るように設計する。

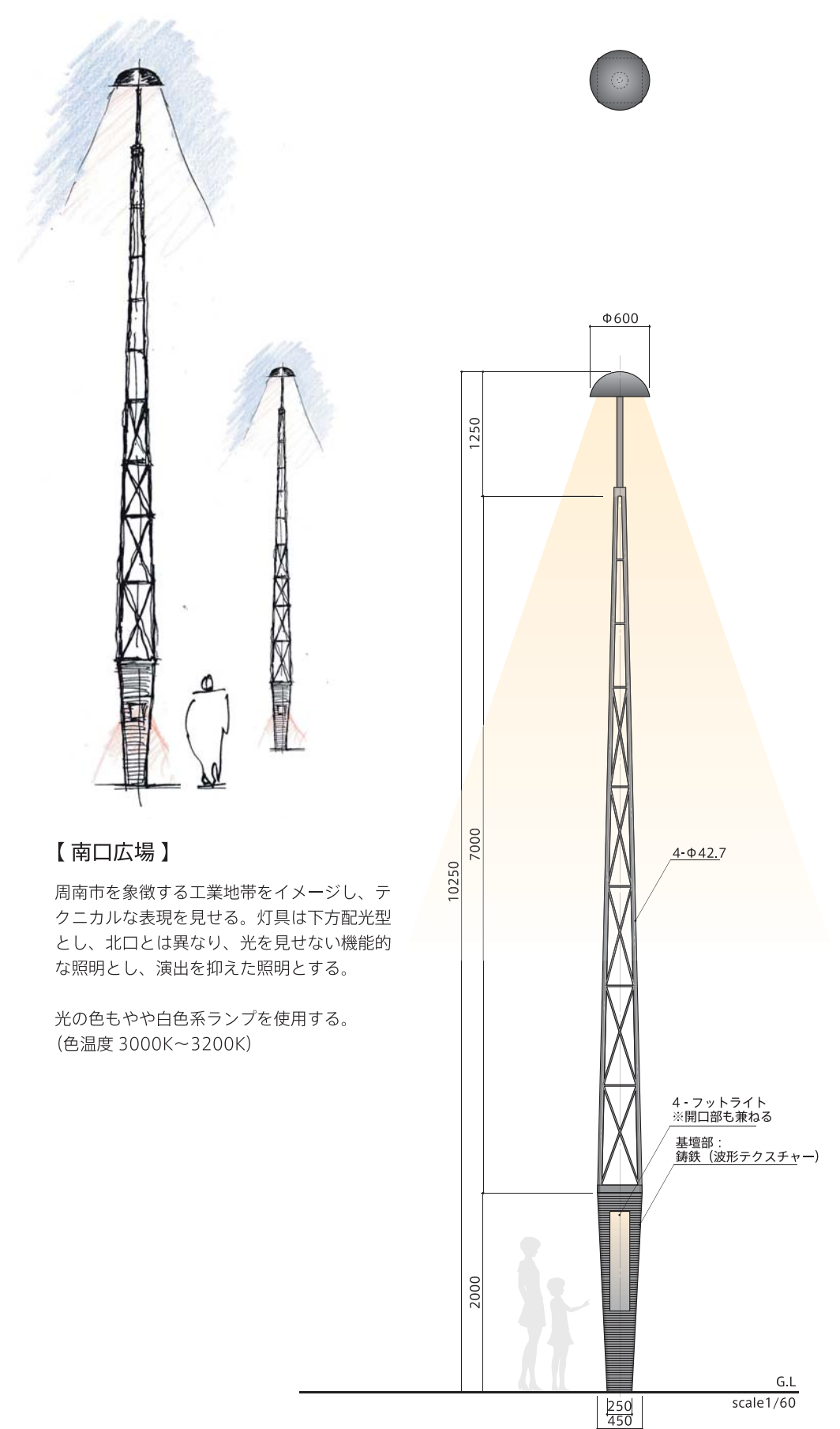
また光の色は暖かみのあるランプを使用する。
(色温度 2500K~2800K)



【南口広場】

周南市を象徴する工業地帯をイメージし、テクニカルな表現を見せる。灯具は下方配光型とし、北口とは異なり、光を見せない機能的な照明とし、演出を抑えた照明とする。

光の色もやや白色系ランプを使用する。
(色温度 3000K~3200K)

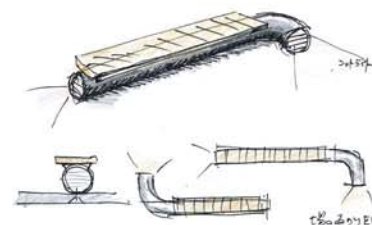
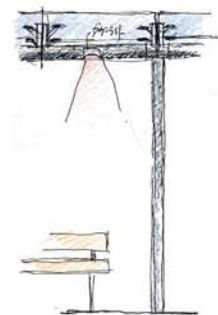


■ 徳山駅周辺 ストリートファニチャーデザイン

● 照明の配置と光のイメージ

照度については、高齢者や障害者に対する視認性を配慮し、車道 7.5lx、歩道メイン動線を中心に 10lx 以上を確保する。

シェルター内 ダウンライト (h=2500)
 貫材に内蔵したダウンライトにより、利用者に必要な明るさを確保する。



ベンチ内蔵フットライト



歩道照明 (h=10000)
 駅前広場を印象づけるシンボリックな照明。ぼんぼり型のボリュームのある光で存在感をつくる。



駅ビルをあかり

機能照明 (下方配光 : h=10000)

歩道照明 (h=10000)
 機能的な下方配光型の照明とし、歩道と車道の両方に必要な明るさを配光する。

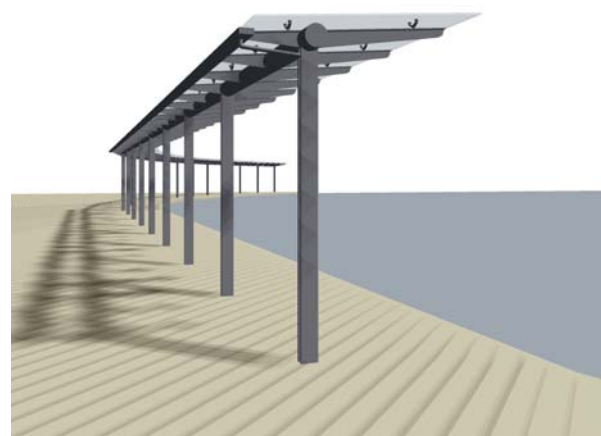
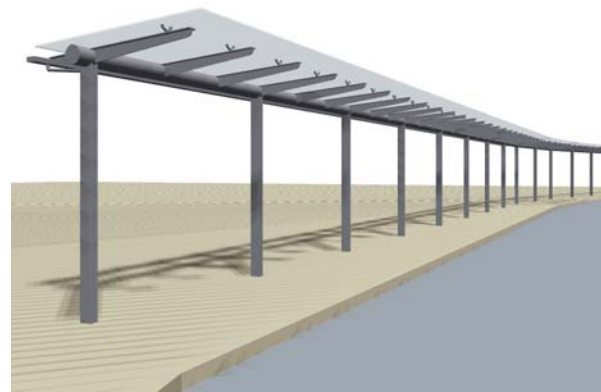
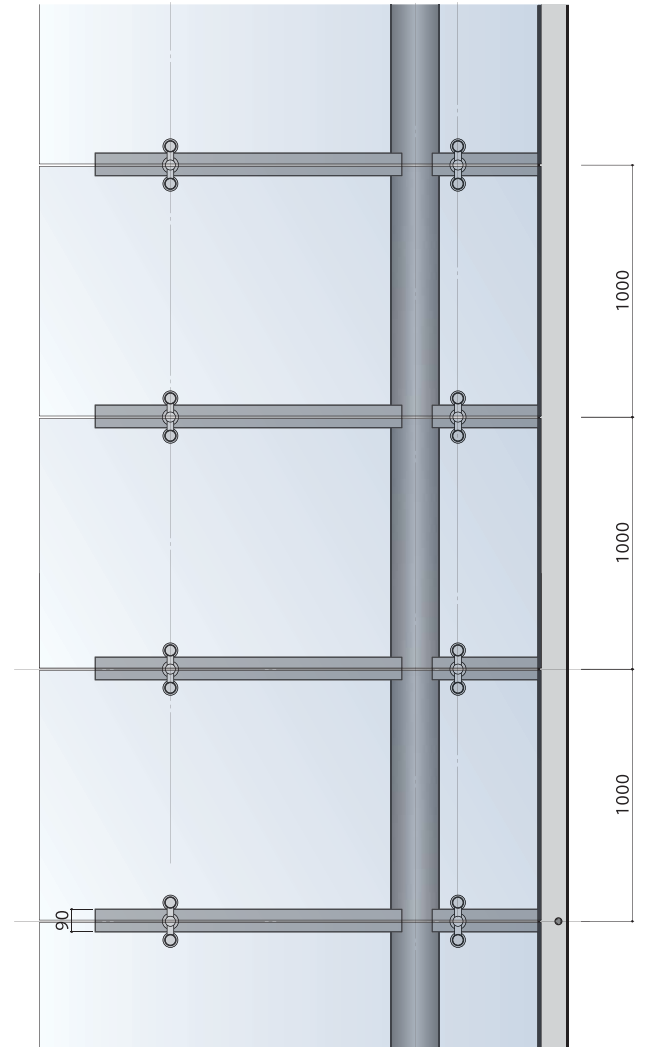
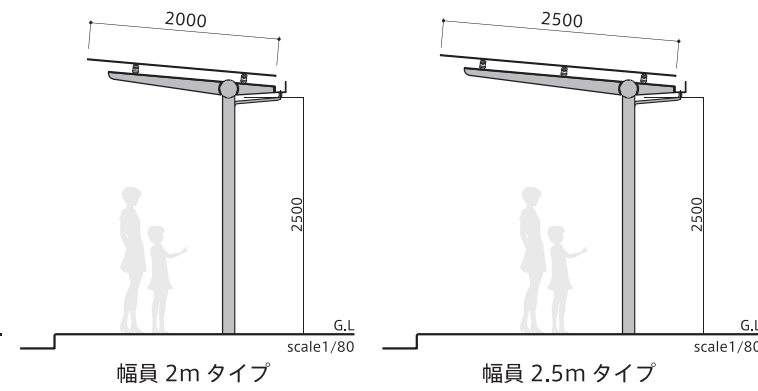
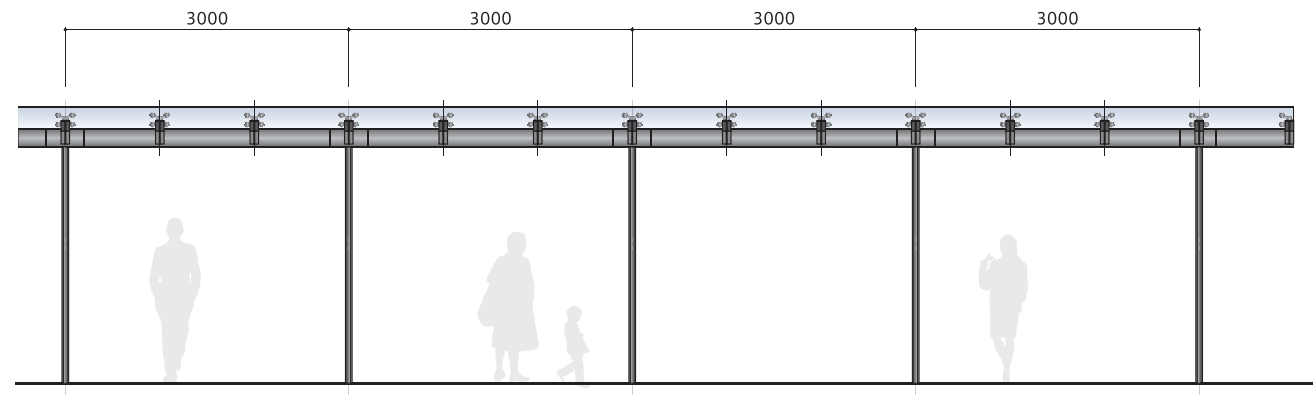
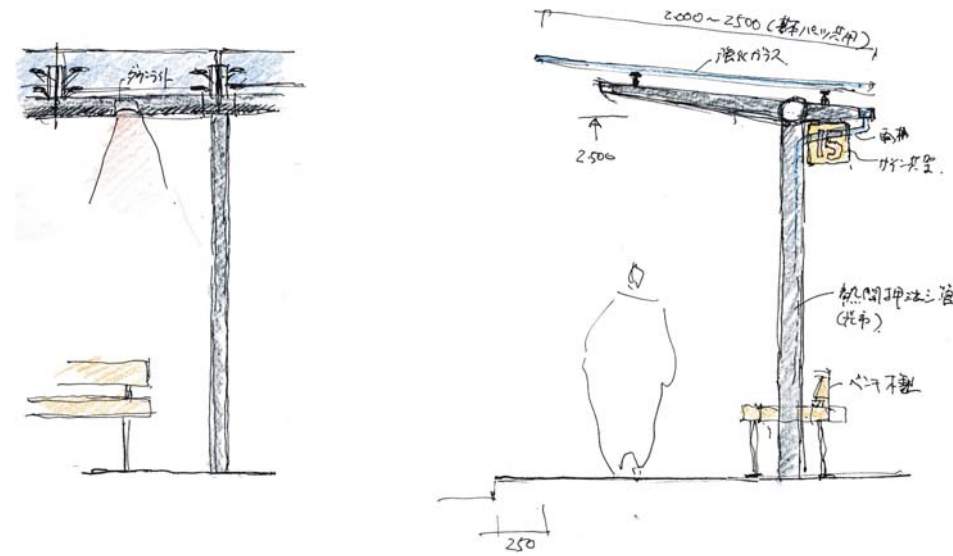


■ 徳山駅周辺 ストリートファニチャーデザイン

● バスシェルター (北口広場)

シェルターの延長が長いのですっきりと軽いイメージが相応しい。屋根材には透明ガラスを用い、存在感を軽減する。また支柱に地場の加工材、熱間押出材を使用して雨樋配管や電線を収納、またサインやハンドルなどの取り付けも考慮し、味わいはあるがスマートで機能的な支柱にする。柱間は約3m程度。

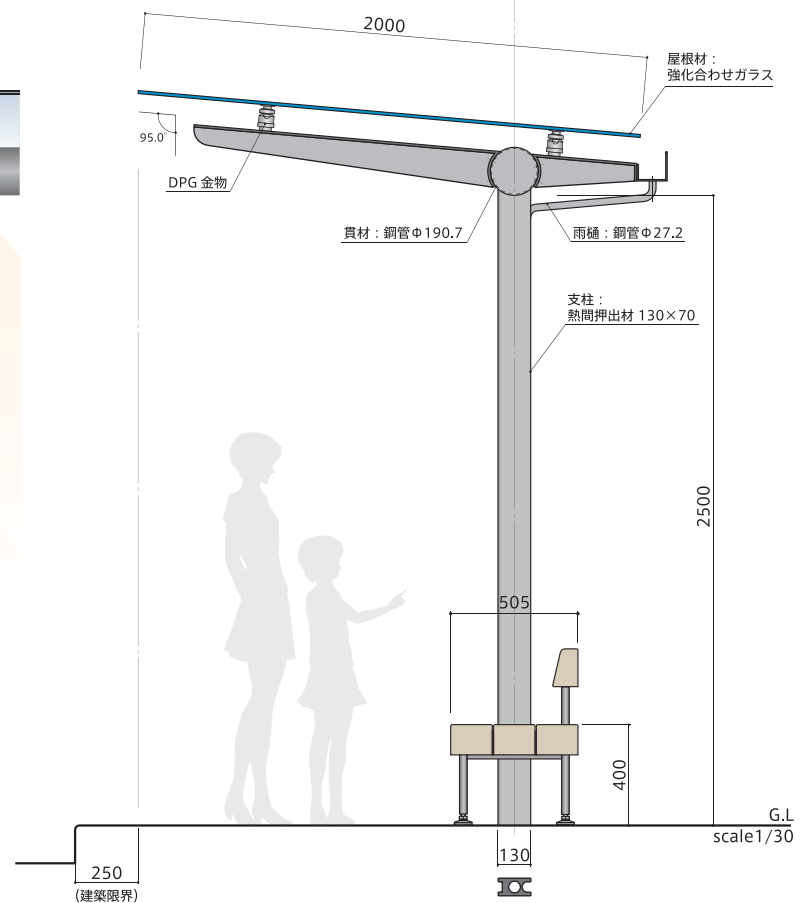
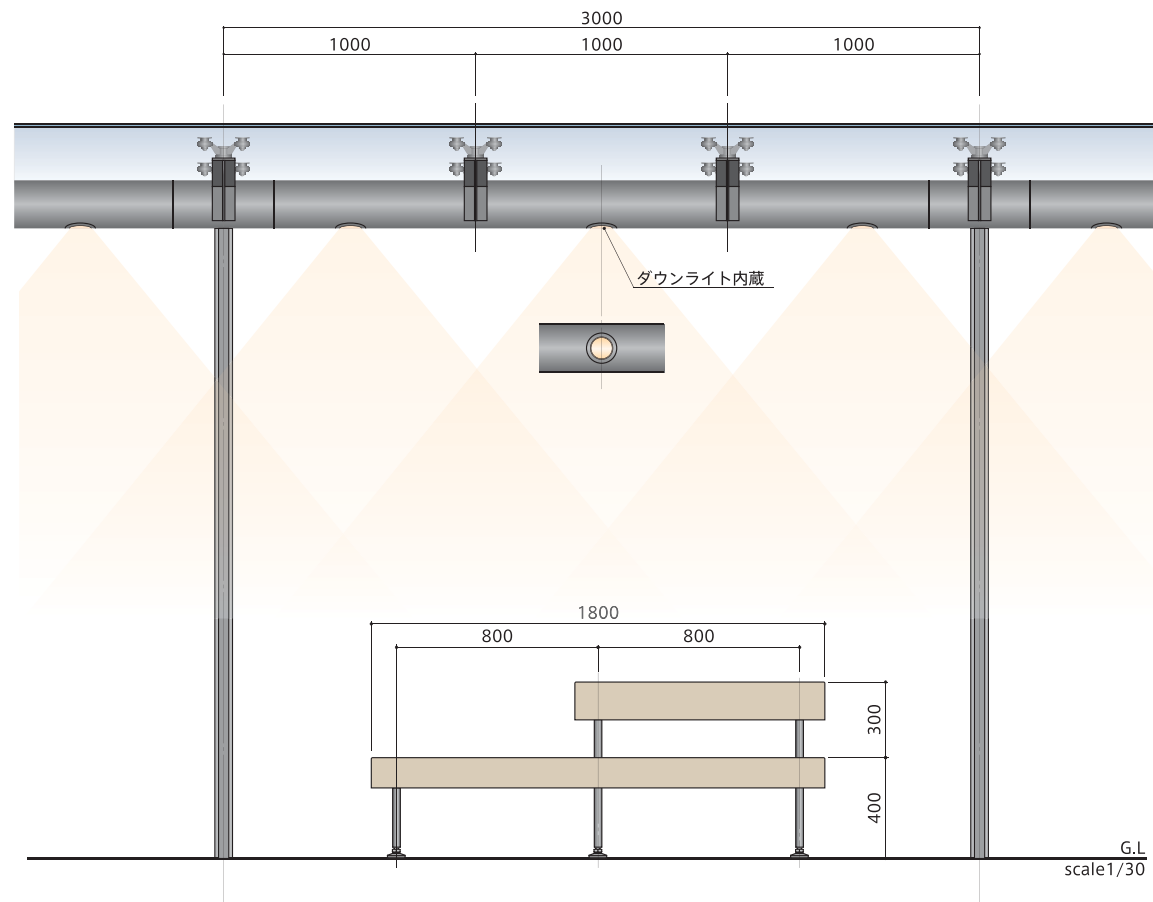
奥行きは交通島部は幅員が狭いため2m、広場駅舎側はやや広く2.5mと2タイプ用意するが、部材やパーツなど、ガラス以外はほぼ共用できるように設計する。



設置イメージ 幅員 2.0m タイプ



参考：熱間押出材の支柱とサイン
松山市バスシェルター



■ 徳山駅周辺 ストリートファニチャーデザイン

● 車道横断 Shelter の検討 (北口広場)

車道上の Shelter は有効高 4.5m 必要である。バス Shelter とかなりスケールの大きい Shelter となる。雨天の利便性は持つことが出来るが、広場の中にこのスケールが存在するかどうか検討する必要がある。



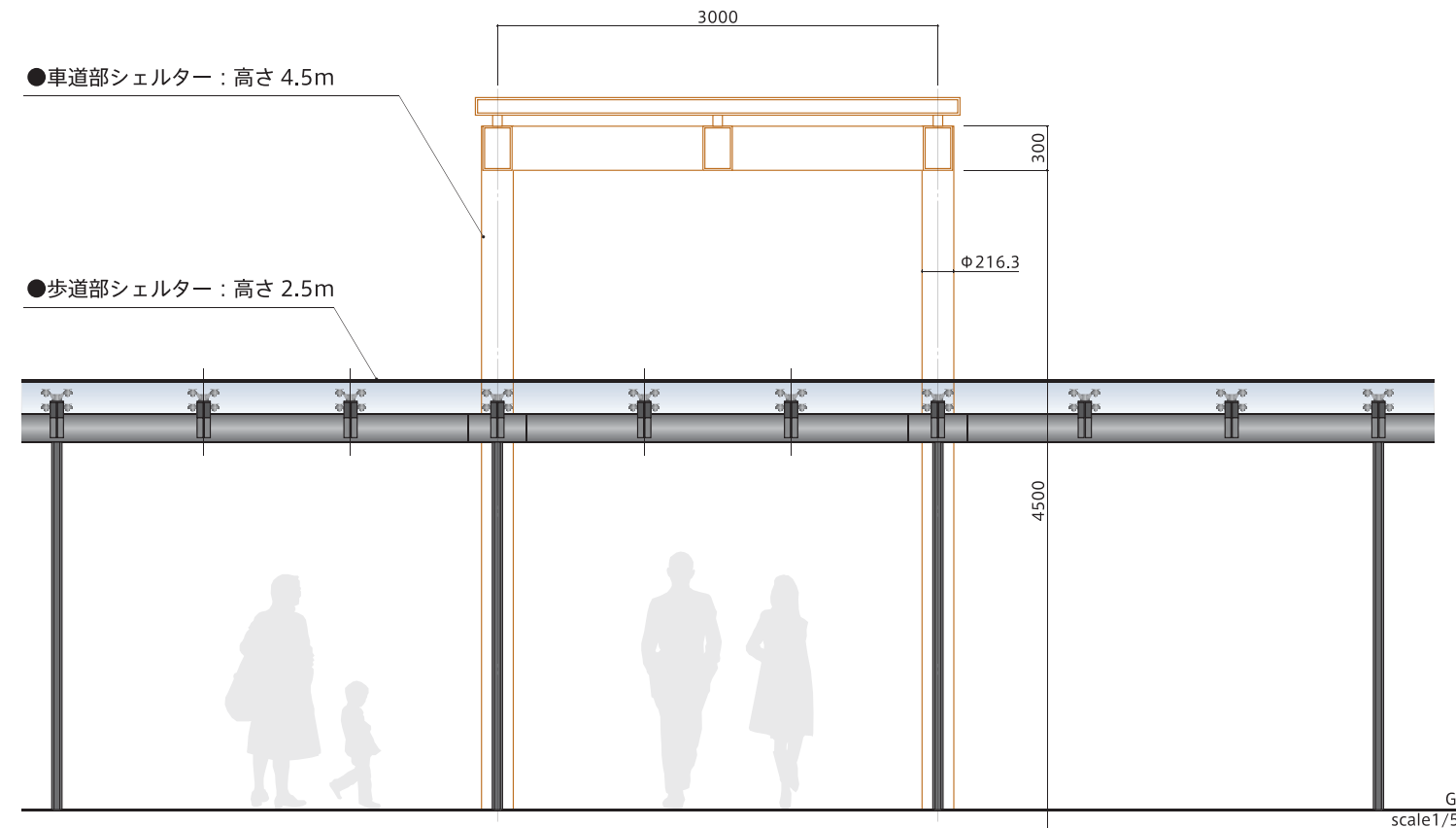
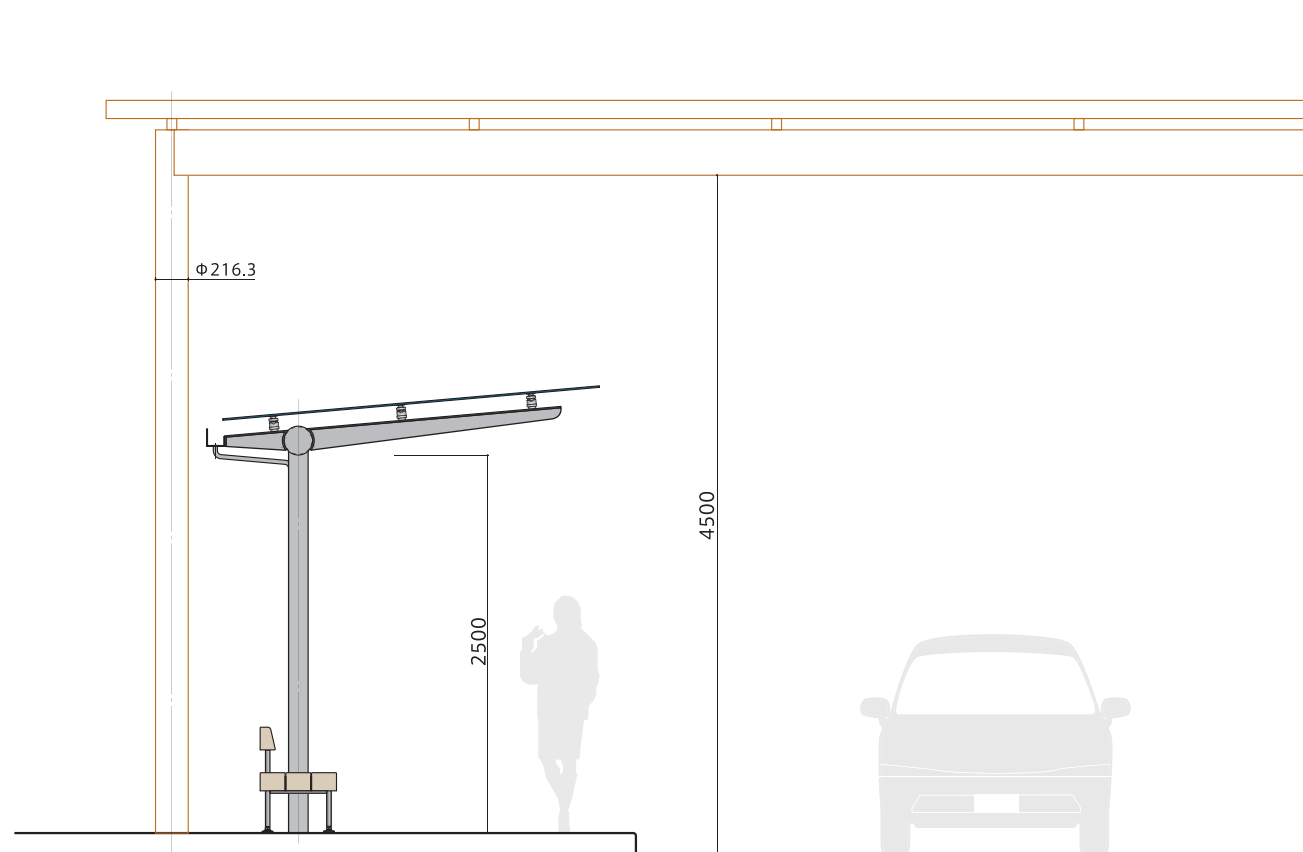
参考：高知駅 駅前広場



横断歩道部に Shelter 設置した場合の見え方：3F から見る



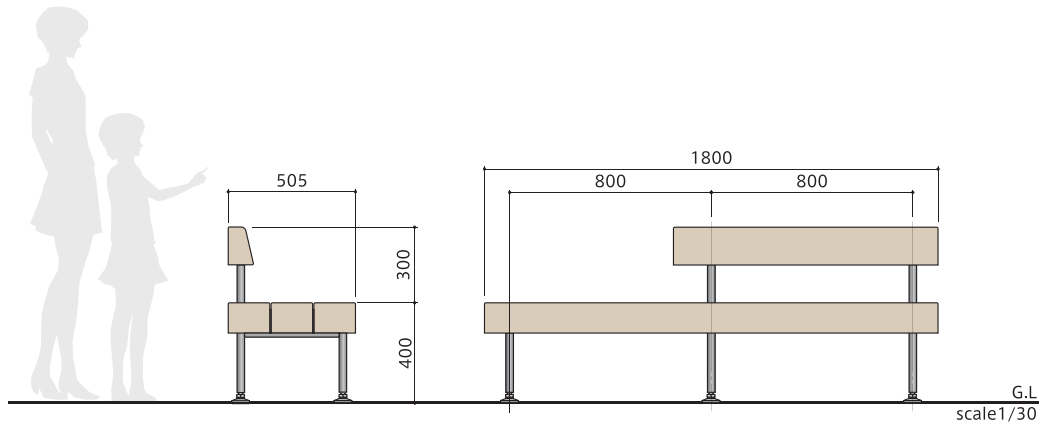
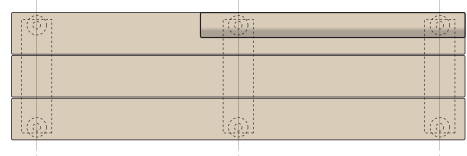
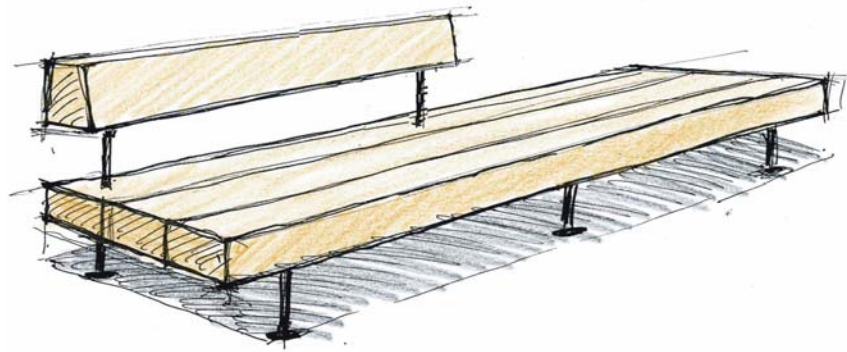
横断歩道部に Shelter 設置した場合の見え方：GL から見る



■ 徳山駅周辺 ストリートファニチャーデザイン

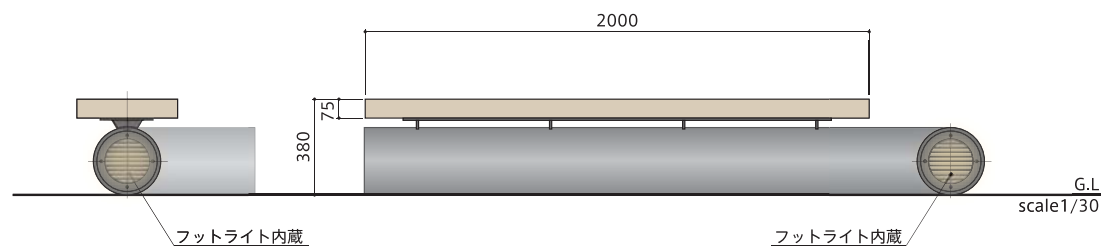
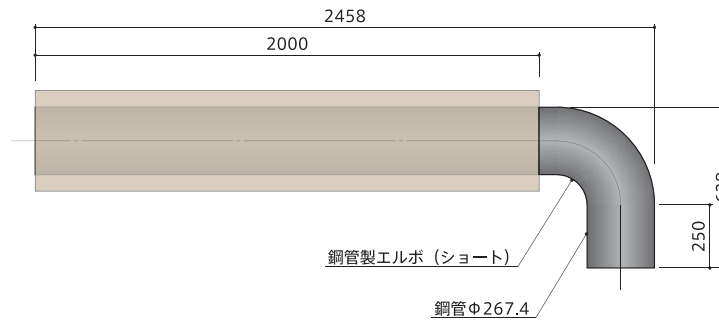
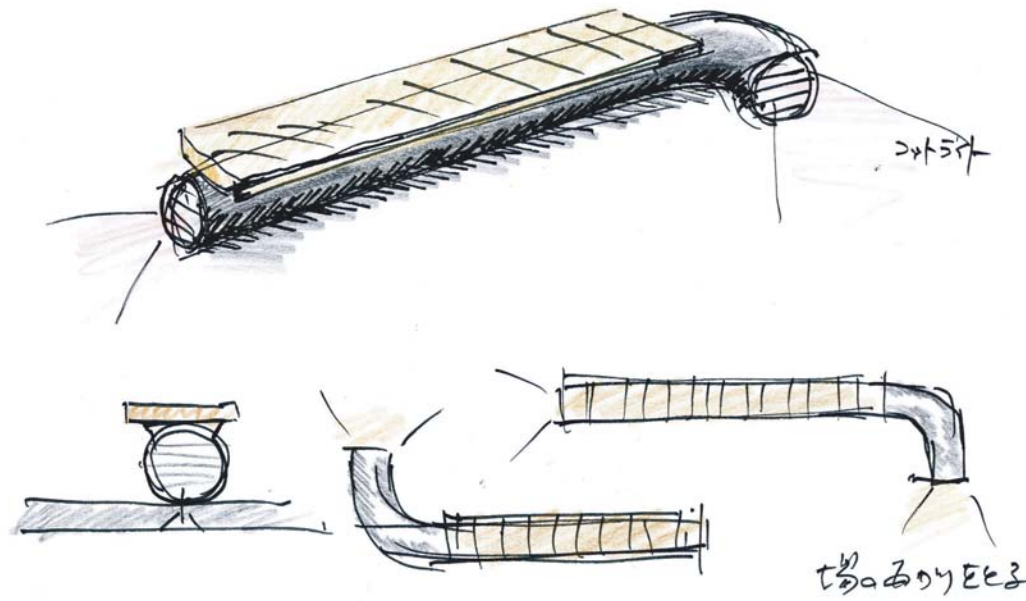
●バスシェルター内ベンチ（北口広場）

現状のバス停のベンチも木であるが、優しく気持ちの良いベンチとするために木製とする。背は全部に付けず、自由に使える台的な部分も設ける。防腐処理を施し、耐久性を持った使用とする。



●ベンチ（北口広場・南口広場）

広場内に設置するベンチ。支柱に鋼管を使用、テクニカルながら楽しさを感じるデザインとする。またフットライトを内蔵し、ベンチ周辺の場のあかりを提供する。



●ポラード（北口広場・南口広場）

ポラードは目立つ必要は無い。基本的に堅牢でさりげないかたちとする。但し車に対しての安全性を考慮し、大きめのデリネーターを内蔵する。鋳鉄製。

